温泉街から地域を盛り上げる

特集7

佐賀県

古湯・熊の川温泉
観光コンベンション
連盟　理事長
山口　澄雄

古湯温泉について

佐賀県佐賀市富士町にある古湯（ふるゆ）温泉は、特定の温泉施設が「古湯温泉」と言われているものではなく、複数の温泉宿が密集している一帯が「古湯温泉」と言われております。また逸話として、秦の始皇帝の命令で日本に不老長寿の薬を探しに来た徐福という人物が発見した温泉と言われるほど古くから湯治場として親しまれています。福岡市内より車で約1時間、佐賀市内より約40分で到着する、山に囲まれた自然豊かな温泉街です。

Uターン後、故郷の姿をみて

昔の古湯温泉は20分に1本、満員になったバスがやってくるくらい多くの人が訪れておりました。住民も活気があり、町全体が生き生きしていたように感じます。しかし時代と共に衰退していき、1993年に一度町を離れ、2011年に富士町へ戻ったときには、空き家や空き店舗が増え、町に人が減り、活気がなくなっている様子がしみじみと伝わってきました。たたみかけるように、ダムができることでの住民の立ち退き、バイパスができることでの町中の交通量の減少、小学校の廃校など富士町が様々な問題に直面していることを知りました。地域全体の立て直しをしないといけないという想いから、地域活性化のための活動を始めました。

温泉街をかき混ぜる

富士町が誇れるものはやはり「古湯温泉」であり、富士町を訪れるお客さんに温泉街を歩いてもらいたい、地域住民には温泉街を、胸を張って自慢してもらいたいと考えました。そこで取り組んだのが、古湯温泉の真ん中にあるメインストリートを石畳にすることでした。最初、住民からはあまり理解されず、車で通るとガタガタする等評判のいい声は聴かれませんでした。しかし、古湯温泉を訪れたお客さんからは、とても歩きやすい、温泉街の雰囲気が出ていると好評で古湯温泉に来て温泉街を散策される方がだんだん増えていきました。こうした地域外の方の反応から住民にも理解者が増え、地域活性化のための活動に協力してくれる方が増えていきました。

また道路の石畳化と同時に、温泉街周辺の空き店舗や空き家へ再び人を呼び込

石畳と温泉施設

みたいという思いから、空き物件の調査を行いました。町外に出て行ってしまった家主さんへ直接貸家にしてもらうよう交渉を行うなど地道に活動した結果、約20件貸すことのできる物件を見つけることができました。空き家内の片付けなどは、地域の方の他、佐賀市内の大学生ボランティアに手伝ってもらいました。取組がメディアに取りあげられたこと、また古湯に住んでいる方が知り合いに紹介することで、温泉街の空き物件は口コミで広まっていき、自然と温泉街に移住者とお店が増えていきました。移住された方には自治会に加入し、地域活動に積極的に参加してもらっています。時には、従来から住んでいる住民と移住者の意見が衝突することもありますが、両者とも目的は富士町の地域活性化であり、このような議論が活発に行われることこそ地域がかき混ぜられ活性化している証拠だと感じています。

空き店舗を改修した飲食店・体験施設

空き店舗を改修したアンティークショップ

あるとき地域の方に「活性化でいろいろがんばってもらいよるですけども、私たち年寄りのことも忘れんでよ」と言われたことがあります。この言葉は今でもずっと頭に残っており、地域住民のことを忘れてはならないという気持ちで活動しております。

今後の古湯温泉について

継続してさまざまな地域活動を行っていくことで、「富士町にはなにもない」と言っていた住民の気持ちも少しずつ変わってきたのではないかと思います。今後の活動としては、将来地域に帰ってきたいと思えるような子どもたちを育てていけるような地域にしたいと考えております。

佐賀市立富士公民館（フォレスタふじ）
映画祭が毎年行われている

取組みの一つとして、コミュニティスクール制度を活用し、学校と地域が協力して子どもたちへ様々なことを経験・体験させてあげることで、将来活躍してくれる人材の育成に繋がればと考えております。

廃校になった小学校を合宿などで利用できる宿泊施設やサテライトオフィスに整備する、ダムを水上スポーツの場として活用してもらうよう整備するなど、移住してきた当初はマイナスに働いていた要素をプラスに変えて、新たなことをしていこうと模索しております。

古湯地域全体が癒し空間になることで、休日は都市部から離れ、ぬる湯の温泉でゆっくりしてもらうような、地域外の方にOFFを楽しんでもらうような場所として広まっていければと考えております。

古湯温泉街の休憩所